

編集長・渡辺の

論両否賛

VOL. 1

お題

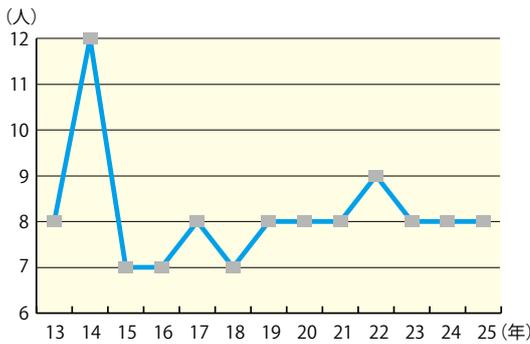
オールスターの女子、足切り、問題について

女子選手は8人が出場

5月に丸亀で開催されるSGオールスター。昨年のMVP・毒島誠が1位で選出されたり、SG無冠にもかかわらず菅章哉が7位にランクインするなど、人気・実力を兼ね備えた多彩なメンバーが並んだ。

女子の出場選手に目を向けると、14位の西橋奈未をトップに、15位・浜田亜里沙、17位・實森美祐、18位・遠藤エミ、19位・川井萌、20位・平高奈菜、22位・平山智加、27位・清水愛海と、8人が選出。川井と清水に関しては、A1級に上がったばかりでうれしいSG初出場を決めたことになる。女王・遠藤や浜田、2月に新設さ

SGオールスターの女子出場人数



れたスピードクイーンメモリアルを制した平高ら、いつメンにフレッシュな新顔2人と、女子も楽しみな名前が並んだ。

ホントなら11人？

ただ、ちょっと待ってほしい。女子の予備選手に名前がある3人だ。予備1位の渡邊優美は中間発表時点で1918票を集めて29位、同2位の高田ひかるも1300票で43位にいた。しんがり出場の土屋智則が2027票だっただけに、その後の投票数次第で抜いている可能性は十分にある。だがオールスターには「女子選手の選出数については、2025年前期級別におけるA1級選手の男女人数比率等を勘案し、女子選手の得票数上位8名とします」という注意書きがある。ということは、簡単に言うと女子はいくら得票したところで、最大で8人しか出場できないということだ。

2014年に12人の女子選手がオールスターに出場した。13年の8人から一気に5人も増えた。女子戦人気の急激な高まりで、女子選手への投票が一気に広がったのだ。だが翌年は7人に激減。その後も7〜8人を繰り返している。(例外として22年は遠藤が直前SGのクラシックを優勝したため9

人。

死に票にしないために

「A1級選手の男女人数比率等を勘案」する以上、再び10人を超える女子の選出は難しそうだ。女子選手が増えることで、SGの「レベル低下」を懸念する声も上がった。確かにそうだ。男子の方が圧倒的な技術、スピード、パワーを持っていることは否めない。だが思い出してほしい。遠藤エミが女子初のSGウイナーになるなど、時代はとつとつに変わった。

何よりもファンの投票を無駄にしてはならないことが第一。オールスターで見たい選手に投票する。それがたまたま女子というだけ。男女比問わず得票順に出場させることが、何よりのファンサービスではないだろうか。



女子最多20回の出場を誇る日高逸子